

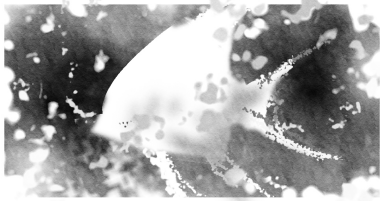
雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

観音

小林貴子

観音の眷属にして春の樟
天寿国曼荼羅繡帳の待春
みんな好き小学校の黒兎
小豆島オリーブオイル色の春
三寒四温継ぎ接ぎの革細工
少年啄木白鳥帰る空仰ぎ
木片を打てば木琴春休み
狼は兜太のことであつたよな
兜太亡し春の内なる破壊力
兜太亡き春や流速早くなり



流木

佐藤映二

ブリュールゲル展出て冬苺奢りとす
縁先に鶴折りかけや春の雷
三輪山を近う近うと雪やなぎ
翁草ひと靡きして絮発たす
花ミモザ未だ定めなき空のいろ
三月や流木黙を解かんとす

四季と折り合っ

佐藤映二

岳関東支部恒例の吟行会、今回は江東区の夢の島へ。その一角に保存された第五福龍丸をつぶさに見る機会に恵まれた。この船体と、漁労日誌をはじめとする被爆関連物資や資料を収めた展示館が出来るまでには、重い歴史がある。

一九五四年三月一日、マグロ延縄漁のこの木造船とその乗組員二十三人全員が、太平洋のビキニ環礁で米国の行っていた水爆実験により被爆した。米政府の船体処分案を退けて国が買い上げ、放射能の低減を待って東京水産大の練習船「は

やぶさ丸」となる。十年後に廃船処分となり、「夢の島」に繋留されたまま沈みかけたことも。しかし、この船が死の灰を浴びた第五福龍丸だとのNHKの報道や「沈めてよいか第五福龍丸」の投書(朝日新聞の「声」欄)などから保存運動が起こり、これを受け止めた都の管理下で船体の保存修復が進み、ようやく恒久的に保存されることに。
極めて現代的課題を負うこの遺産にじかに触れながら作句することで、季語の使い分けや俳句の詠み方が新鮮になる、と吟行後の句会で主宰が話されたことに感銘した。